

市民の皆さんに支えられながら、お蔭様で開設4年目を迎えることができました。

日々、ニュースを賑わす虐待、少年犯罪報道……先の見えない不安を感じる中、子育て真っ最中のご家庭からたくさんの要望が寄せられ、その内容もますます多様化しています。

そして、地域の暖かいまなざしが子供達を優しく見守り、家族を支えてくれる、そんなつながりが、秦野のあちらこちらで確かに育ち、広がっています。

預ける人も預かる人も、お互いの責任と自発性を大切にし、“無理なく、安全に、安心して”活動できるよう、センターアドバイザー一同、皆さんとともに歩んでいきたいと願っています。今後とも、ご理解ご協力をお願い致します。



好奇心旺盛な子供は、目新しいものにはなんでも興味を示します。少々古いおもちゃでも自分なりに工夫して実によく遊びます。子供ならではの想像力を駆使して、全く毛色の違うおもちゃを組み合わせる新たな遊び方を創造することも多々あります。

子供と接するとき、よく“子供の目線”などといいますが、実際はそう簡単にできるものではありません。例えば、新しいおもちゃを買い与えた場合もついつい大人の都合で考えてしまいます。高いお金を出したのだからおもちゃ本来の使い方であって欲しいと思うのは本音の部分です。しかしながら、子供は子供なりの感性で物事を見ています。

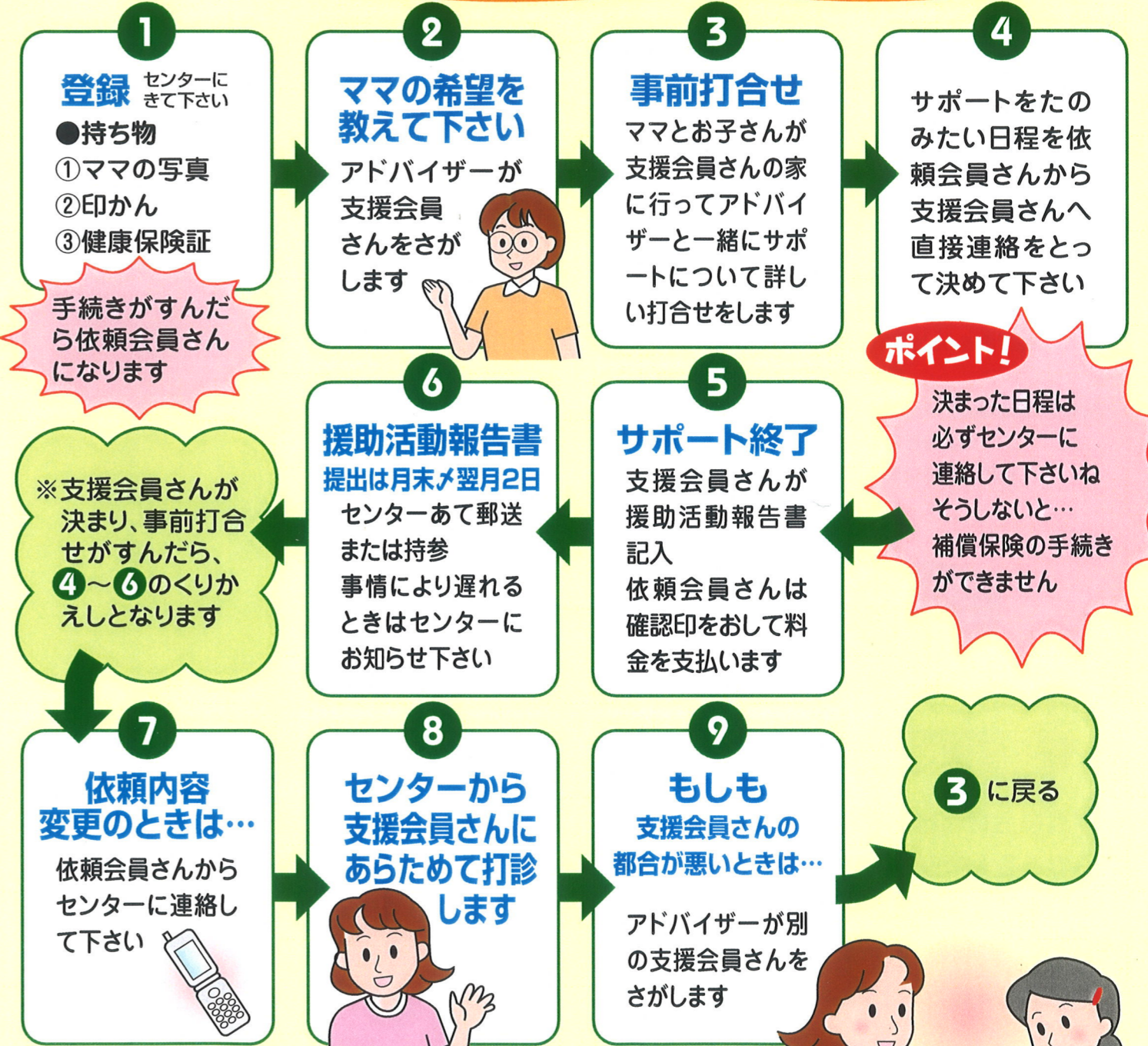
より自由な発想の持ち主である子供は、時として大人の思いも及ばない行動をとります。こんな時は、とりあえず認めることが大切になってきます。「なにができるのかな?」「これはどうなっているのかな?」とか、男同士の会話なら「すごいのかできたな!」でもいいかもしれません。とにかく反応してあげることが大事です。頭ごなしに否定してしまえば会話はとぎれてしまいます。子供たちは周りの人の肯定的な反応を得て遊びに夢中になって

行くのです。おもちゃ遊びを通じて子供は多くのことを学んでゆきます。その一つ一つが問題行動としてとらえられるか、創造性を育てるチャンスと見なされるかは周りの人の接し方によって変わってきます。

おもちゃ遊びにルールはありません。頭を柔軟にして子供と向き合ってゆくなかで楽しい時間を共有すれば、子供の心の中がわかってくるはずですよ。



子育てをサポートしてほしい… そんなときはファミサポへ!



支援会員登録

- 支援会員さんになるためには3日間の研修会受講が必要です。詳しくは裏面をご覧ください。
- 研修会受講後登録票と写真を提出していただくと正式に支援会員さんになります。
- アドバイザーから電話にて支援活動の相談をさせていただきます。無理をせず、ご都合が悪い場合は率直にお話し下さいね。

